

国語科学習指導案

- 1 日時・場所 平成24年11月 []
3年3組教室
- 2 対象 第3学年
- 3 単元名 「作品の価値や意味を考えるには（故郷より）」
（『中学生の国語3年』『学びを広げる』三省堂）

4 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元では読むこと的能力を育てるために、学習指導要領の「C読むこと」の「イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。」

「エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。」を受けて設定した。

本単元は、中国の近代文学の代表的な作品であり、筆者の1919年の実体験がもとになって書かれた作品である。従って当時の中国の時代背景や社会情勢を抜きにしては、主人公がなぜこれほどに「故郷」に対して絶望感に囚われてしまっているのか、生徒には理解が難しい。

しかし一方で、登場人物の心情や言動は非常に丁寧な心理描写で描かれている。そのため登場人物の心情や心の「ゆれ」を描写に沿って丁寧に読み取っていくことによって、生徒に読む力を身につけさせることのできる非常に有効な単元であると言える。

主人公や閨士の言動を通して、人の生き方や社会の在り方に警鐘を鳴らし続けた魯迅の思いを生徒が共有し、人間や社会について自分の意見を持ち、考えを深めることは、これから社会に出ていく生徒達にとって非常に意義のあることであると考えられる。

(2) 生徒観

1 全体の課題について

本学年全体の特徴として、読む力の弱さが挙げられる。特に物語を読み深める力が弱い。その理由として3つ挙げられる。

まず、物語の読みを深める上で重要な「描写に着目する力」の不足である。特に登場人物の言動を理解するためには、丁寧に描写を追っていく必要があるが、重要なキーワードを読み落としてしまったり、最後まで粘り強く読み進めることができなかつたりということから理解が深まらないままで終わってしまう生徒がいる。

次に語彙の不足である。日本語は心情を表す言葉が豊富な言語であると言われる。よく似た感情でも、表現の違い・語句の違いで伝わるニュアンスは大きく異なる。そういった心理描写を読みとっていくための基盤となる語彙力の不足が顕著である。

最後に、名作と言われる作品に触れていない実態が挙げられる。本校では朝読書として10分間の読書活動を毎日取り入れている。その際にどのような本を読んでいるか調査したところ、「芥川龍之介」「太宰治」といった日本の著名な作家の作品は朝読書で読んだことがないと答えた生徒が多数いた。そのためか、名作と呼ばれる作品に対して「難しい」「長い」「知らない言葉がたくさん出てくる」という意見が目立った。

	質問項目	当てはまる	まあまあ当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
1	授業がわかりやすい	19人	16人	2人	0人
2	授業が楽しい	26人	10人	1人	0人
3	授業の中で「自分の考えをもつ」場面がある	28人	8人	1人	0人
4	授業の中で「表現したり発表する」場面がある	30人	6人	1人	0人
5	授業で「伝え合う発言」を意識している	25人	9人	3人	0人

(3) 指導観

本単元では指導にあたって、難語句の読み取りに困難を感じて意欲をなくしてしまう生徒がでないように漢字や語句の学習を丁寧に行っていきたい。例としては「寂寥」「でくのぼう」「野放図」といった難解な語句は辞書で意味調べを行うとともに読み取りの際のキーワードとして発問の中に取り入れていく。

また、本単元では、言語活動の充実を図っていきたい。これまでも読解の中でペア学習や4人グループでの話し合い活動を取り入れ、自分の考えを発表し合ったり、互いの意見をまとめる活動を意図的に取り入れてきた。その結果、多くの生徒の意見に触れることで考えを広めたり、人の意見を参考にすることで自分の考えを深めたりすることができ、より意欲的に授業に参加しようとする雰囲気が出てきている。従って本単元でも言語活動の充実を通して生徒の内容理解に役立てるとともに自分の考えを広めたり深めたりすることができる活動にしていきたい。

(単元を貫く言語活動について)

本単元では、最後に主人公から閩土に視点を置き換えて物語全体をリライトするという言語活動を行う。

この物語は主人公である「わたし」の視点からしか語られておらず閩土の心情や台詞は最低限しか出てこない。そのため物語の最後で主人公は「私と閩土との距離は全く遠くなった」「閩土のように、打ちひしがれて心がまひする」と述べているが、あくまでも主人公の視点であって、これがそのまま閩土の心情に当てはまるとは限らない。むしろ物語の細部まで丁寧に読み深めていくと、閩土の言葉の端々に「わたし」への友情と、それを素直に表現できない葛藤といったものが透けて見えてくる。

従って本単元全体を貫く言語活動を、閩土の心情に焦点を当てて読み取ることに設定した。そして最後に物語全体を閩土の視点でリライトすることで、単元と向き合っ丁寧読み深めることでしか得られない豊かな読みを味わわせたいと考える。

5 単元の目標

関心・ 意欲・ 態度	主人公や閩土の言動から読み取った人の生き方や社会の在り方を適切に引用し、自分の意見や考えを読み手に効果的に伝えようとする。
Cイ	文章の中における語句の意味や人物の設定の仕方をとらえ、理解に役立てることができる。
Cエ	文章に表れているものの見方や考え方をつかみ、人間や社会について自分なりの考えをもつことができる。
言ア	人物の描かれ方による語句の使い方や意味の特徴をつかむことができる。

6 単元(単元)の評価規準(「B」おおむね満足できると判断される状況)

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
主人公や閩土の言動から読み取った人の生き方や社会の在り方を適切に引用し、自分の意見や考えを読み手に効果的に伝えようとしている。(関心・意欲・態度)	場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てている。(Cイ) 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、人間や社会について自分なりの意見をもっている。(Cエ)	使われている言葉について、人物の描かれ方による使い方や意味の特徴をつかみながら物語を読んでいる。言(ア)

7 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習内容	評価の実際				
			関	読	言	評価方法	
1	2	○ 「故郷」をリライトするという単元の見通しをもつ。 ○ 第1場面を読み、「故郷」が主人公にとってどんな場所であるのかをマッピングを用いて読み取る。 ○ 主人公の帰郷の目的を掴む。			○	使われている言葉について、人物の描かれ方による使い方や意味の特徴をつかみながら物語を読んでいる。言（ア）	記述の確認（ノート）
		○ 第2場面から、主な登場人物を挙げ人間関係図を作成する。 ○ 主人公と閩土の人物像をマッピングで読み取る。			○	登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てている。（Cイ）	記述の確認（ノート）
2	2	○ 第3場面前半を読み、閩土の今と昔の変化を読み取る。 ○ 「ああ、閩ちゃん、よく来たね……。」という主人公の声かけに自分が閩土だったらどう答えるかを考え、閩土の心の「ゆれ」を読み取る。【本時】（3/6）			○	閩土の言葉や行動から閩土の心の「ゆれ」をつかみ、その理由を本文の中から挙げている。（Cイ）	記述の分析（付箋・ノート）
		本時の目標：閩土の心の「ゆれ」をつかみ、理由を本文から挙げるができる。					
		○ 第3場面後半を読み、閩土の人物像の設定の仕方を読み取る。 ○ 閩土の人物像と、主人公の人物像とを比較し、そこに表れている筆者の人間や社会に対するものの見方や考え方を捉える。			○	主人公と閩土の人物像を比較し、そこに表れている筆者の人間や社会に対するものの見方や考え方を捉え内容の理解に役立てている。（Cイ）	記述の分析（ノート）
3	1	○ 第4場面を読み、主人公は「故郷」をどのような存在と捉えているのかをつかむ。 ○ 「歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」という部分に表れている筆者のものの見方や考え方をとらえ、自分なりの意見をもつ。			○	最後の一文を解釈することで、作品全体を通して筆者が描こうとした人の生き方や社会の在り方について自分なりの意見をもっている。（Cエ）	記述の分析（ワークシート）
4	1	○ 2・3・4場面からプロットを取り出し、主人公の視点から閩土の視点へ置き換えて『故郷』をリライトする。 ○ 単元の振り返りをする。	○			主人公や閩土の言動から読み取った人の生き方や社会の在り方を適切に引用し、自分の意見や考えを読み手に効果的に伝えようとしている。（関心・意欲・態度）	作文

8 本時の展開

本時の目標：関土の心の「ゆれ」をつかみ、理由を本文から挙げることができる。		
学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1 ○国語辞典を使って難しい語句の意味を調べる。 ○本文を音読する。	◇ 教 音読の際の姿勢、本の持ち方、足の広げ方を徹底させる。	
2 ○第2場面を読み取ったノートと第3場面の本文を比較し昔と今での関土の変化を表にまとめる。 ○発表する。	◇ 教 服装、顔、手といった比較のポイントをあらかじめ提示しておく。 ◆ 教 比較のポイントが読み取れない生徒は、近くの生徒同士ノートを交換させることで、友達の意見を参考にさせる。	
3 ○本文中の「ああ、関ちゃん—よく来たね…」「だんな様!…」のやり取りを取り上げ、もしも自分が関土だったら、どう答えるか、理由を含めて考える。 ○隣同士で話し合い、発表する。	◆ 考 自分の意見が出にくい生徒には机間巡視を行い、自分の立場に置き換えて身近な体験をもとに考えるようアドバイスをする。 ◆ 考 それでも意見が出ない生徒には友達の意見を参考させる。	
4 ○本文中から重要なキーワードを挙げ、再度自分だったらどうするか立場と根拠を明らかにして付箋に記入する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>立場 ◇考 揺さぶりポイント</p> <p>①「迅ちゃん!」 ←・「ああ、関ちゃん、よく来たね……」の…意味は何か。 ・関土の服装・顔・手を再度確認。それに対する「わたし」の服装を想像させる。 ・「喜びと寂しさの色」とあるが、ここの「喜び」とは何に対する喜びなのだろうか。</p> <p>②「だんな様!…」 ←・「唇は動いたが、声にはならなかった」で、関土が言いかけて言えなかったことは何だったのか。 ・「喜びと寂しさの色」とあるが、ここの「寂しさ」は何に対する寂しさなのだろうか。</p> </div>		
○4人グループでの話し合い		
5 ○本時のまとめ。 各グループで出た意見を発表し、関土の「喜びと寂しさの色」とは何を表しているのかをつかみ、関土のなかにある心の「ゆれ」をつかむ。	◇ 教 発表のルールを徹底させる ◇ 教 関土の台詞や表情に、心の「ゆれ」を表すキーワードが隠れていることに注目させる。	関土の言葉や行動から関土の心の「ゆれ」をつかみその理由を本文の中から挙げている。(Cイ) 描写の分析 (付箋・ノート)

言語活動の充実
1

言語活動の充実
2